

[ゼミ] 紹介

理論から社会問題まで、個性に応じてテーマを選び、主体的に学べるゼミナール群。

Close Up
ゼミ

日常生活に欠かせない「お金の流れ」を学ぶ。

中川ゼミ



ゼミ生

教員

学内外での研究発表や、学生主導型の演習を通して、積極性が身につきました。



大勢の人の前で発表する機会が多いのが、中川ゼミの特徴。ゼミは決められたテキストを頼りに、学生が交代で講義するスタイルが進みます。さらに、学内外のプレゼン大会にも積極的に参加しました。こうした経験を通して身についた「自分で考える力」「人にわかりやすく説明する力」は、社会に出てから大いに役立つと思います。

経済学部 経済学科 2010年3月卒業

糸日谷 知夏 (兵庫/県立明石南高校出身)

自分の意見を人にわかりやすく伝える力を身につけてほしい。

私のゼミでは、まずテキストを使ってファイナンスの基礎知識を学びます。その後、「日経STOCKリーグ」という株式学習コンテストへの論文提出や、学内外のプレゼン大会を目標に、チームに分かれて調査・研究にチャレンジ。意見をまとめて発表するという体験を通じて、自分の考えを誰かに伝えるためのスキルを身につけてもらいたいと考えています。

経済学部 経済学科

中川 竜一 教授



経済学の専門書がテキスト。講義するのは学生です。

ファイナンスの基礎を学ぶために、経済学の専門書の読解に挑戦。ページごとに担当を決めて、学生が解説を行うので、知識がしっかり身につきました。



日本経済の拠点を見学！ニュースが身近になりました。

3年次生のとき、ゼミ生一同で日本銀行本店と東京証券取引所を見学。お金の歴史や金融システムに関するレクチャーもあり、良い刺激になりました。

ゼミ生 × 教員 インタビュー

中川 「ファイナンス」というと、少し難しいイメージがあるかもしれませんが。しかし、お金の流れを学ぶ学問は、人生に関わる学問ともいえるでしょう。たとえば「自動車はレンタルするのと購入するのとではどちらが得か?」「あるときは賃貸マンションに住み、あるときは多額のローンを組んでまで住宅を購入するのはなぜか?」というような問題を明らかにできます。

糸日谷 数学が苦手ということもあって、私もファイナンスには難解なイメージを持っていました。でも、ゼミで専門的に学んでからは、生活の役に立つ身近な学問だと思うようになりました。

中川 数学が得意な人に向いている分野ではあるけれど、必要な知識は高校数学よりも簡単です。それにプレゼンなどの際には、数字を提示した方が説得力があると思いませんか?

糸日谷 そうですね。ゼミに入ったばかりのころ、ゼミ生4人でチームを組んで、「日経STOCKリーグ」

という株式学習コンテストに応募するための論文を作ったときにそう感じました。実際に、証券会社でアンケートを取るなど、積極的にデータを収集。人にわかりやすく説明するためには、客観的な数字や論理的な説明が必要なんだと身をもって学びました。

中川 糸日谷さんのチームは、「株主優待制度は株価に影響するのか?」がテーマでしたね。データがしっかり集められていたし、結論もわかりやすく、充実した内容だったと思います。

糸日谷 「株」というと、自分には関係のないことのように感じていたのですが、研究のために小額ながらも株式投資も経験。株価の仕組みがよく理解できるようになりました。また、実際に日本銀行や株式市場など、お金が動いている現場を見学できたことも印象に残っています。ゼミに入ってから、経済をグッと身近に感じられるようになりました。

中川 私は学生に、自ら問題を設定して自分なりの答えを見つけ出す方法、自らの考えを人に説得す

るような表現方法を身につけてもらいたくて、「日経STOCKリーグ」やゼミナール大会への参加を促しています。

糸日谷 確かに、ゼミナール大会への参加を通して、人前で話すスキル、自分から情報を集めて行動する力が身につきました。就職活動をスタートするときに、希望する業界に取材を行ったのも、ゼミで培った積極性のおかげだと思っています。

中川 ゼミのなかでは、糸日谷さんが一番に就職を決めましたね。初めに会ったときは控え目なイメージがありましたが、ゼミを通して成長してくれた結果だと思っています。

糸日谷 春からは製薬会社の営業として働く予定ですが、ゼミで学んだファイナンスの知識やプレゼン能力は今後も役立つと確信しています。

中川 どんな分野でも、お金のことを考えることは不可欠です。ファイナンスの知識は、糸日谷さんが就職する製薬会社をはじめ、さまざまな職種・業界で役立つでしょう。